

林崎小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①よくわかる授業・考えを深め合う授業づくりの創造
- ②学校と家庭との連携による、生活・学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 : 委員 校長 教頭
- : 教務主任 研修主任
- : 学年主任
- : 特別支援教育コーディネーター

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学習に意欲的に取り組み、課題にもまじめに取り組める児童が多い。めあてをもとに、振り返りを行い、自分の言葉でノートにまとめられる児童も増えてきている。	○語彙数が増え、正しい言葉で読んだり書いたりできる。 ○数量や図形に関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けている。	○すべての児童が学習内容をわかりやすくノートにまとめることができる。 ○漢字や計算問題等の定着テストを繰り返し行い、正答率を90%以上にする。	校内全体で家庭学習についての共通理解を図る。本年度も各学年に「ことわざ辞典」「慣用句辞典」や百人一首などを配付し、児童が言葉についての関心を深められるようにする。	昨年度に引き続き、めあてと振り返りを明確にした板書計画・ノート指導を全校で徹底した。全国学力調査・県ステップアップテストの質問紙の結果を受けて、家庭学習の内容に関する校内研修を行い、基礎学力が身に付くように話し合った。読み・書き・計算を中心とした学習を積み重ねることで、学力向上が達成できるよう取り組んだ。	今年度の学校評価において「毎日の授業がわかりやすい」と答えた児童の割合は95.4%、「漢字や計算の力がついてきている」と答えた児童の割合は92.7%であった。全校で授業改善と家庭学習の定着に取り組む、漢字や計算を中心に宿題に出したり、ミニテストを行ったりしたことで、漢字や計算の定着率が達成できたといえる。
課題 国語科・算数科ともに上位層と下位層に二極化する傾向があり、個別指導を充実させる必要がある。基礎・基本の知識については県・全国平均を下回っている問題もあり、TTを活用した個別指導や復習等により習熟を図る必要がある。	具体的方策(教員の取組) ①めあてと振り返りを明確にした板書計画とノート指導を全校で共有し、徹底する。 ②量感を育てるための操作活動を多く取り入れる。 ③印刷室に各学年の補充プリント棚を設置し、積極的に活用し、漢字・計算・図形問題等の復習を行い、定着を図る。	取組指標 ①②校内研修において、板書やノート指導の効果的な仕方を共有し取り組む。 ③全校で漢字・計算テストを年3回程度行う。		評価 A 印刷室に設置したプリント棚はどの学年においても積極的に利用されていた。前学年の漢字や計算の復習にも活用でき、効果的であったという教員の声も多かった。しかし、プリントの内容が基礎基本に偏っているという意見もあったので、来年度は、県から配付された学力向上確認プリントもふくめ、活用問題なども準備して、さらに学力向上に役立てていきたい。漢字・計算テストの実施方法については各学年に任されているが、いつ、どのように行うとより効果的であるかということ今年度同様に話し合い、全校で共通理解した上で、取り組んでいきたい。	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ホワイトボードの活用や日記・ワークシートで自分の考えを書く機会を増やしたことで、書くことに意欲的な児童も増えてきている。	目的に応じて、理由や根拠を明らかにしながら、自分の考えを進んで話したり書いたりできる。	自分の考えを書いたり話したりすることができていると答える児童の割合を80%以上にする。		授業の中で、児童が考えを書いたり話したりする機会を増やした。児童の学び合いや思考力を高める取り組み等について、講師に来ていただき、校内で研修する機会を持った。効果的な授業実践について、話し合い、共有できるようにした。	学校評価において、「思ったり考えたりしたことを友達に伝えることができています」と答えた児童の割合は84.0%であった。授業で書く機会を増やしたことにより書く力は育ってきたが、自分の考えを話すことには未だ課題があるといえる。
課題 伝える力や発信する力に課題がある。自力解決のためのグループ(ペア)学習や全体での練り上げの過程を重視した授業の充実を図る必要がある。	具体的方策(教員の取組) ①話し合い活動を充実させ、理由や根拠を明らかにしたり、自分で筋道を立てて考えたりする活動を設ける。 ②児童の学び合いや思考力を高める取り組み等について、講師の方に来ていただき、教員間で研修する機会を持つ。	取組指標 ①自分の考えを伝えたり、筋道を立てて話し合ったりする機会を、授業の中で週に1回以上行う。 ②ホワイトボードを積極的に活用する。		評価 B 自分の考えを伝えたり、筋道を立てて話し合ったりする児童の育成を課題として、話したり伝え合ったりする活動を、授業の中でどのように取り入れていくかということについて、引き続き、効果的な指導方法を模索し、実践していけるようにしていきたい。今年度、研修を深めた各教科における「主体的・対話的で深い学び」の実践についても、来年度も継続して、研究授業や事例をもとに話し合いを深め、全校で授業改善につとめたい。	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 林崎のびっ子カードでの持ち物の確認や自主学習の推進により、学習規律の定着にまじめに取り組む児童も増えてきている。読書カードに記録したり、図書室の貸し出し数を増やしたりしたことで、図書室を積極的に利用し年間100冊以上本を読んだ児童の数が増加した。	○規則正しい生活習慣や学習習慣が身に付いている。 ○自主的に課題をもって学習に取り組む。 ○進んで読書や家庭学習に取り組む、自ら学ぶ楽しさを実感できている。	①ふでばこの中身や学習用具が整っている児童の割合を90%以上にする。 ②自主学習の内容を工夫し、自主学習や読書に進んで取り組める児童を増やす。	校内研修で「主体的・対話的で深い学び」についての実践報告の場を設け、日々の実践にいかせるようにする。	「林崎のびっ子学習」を配布し、学習習慣の定着と自主学習の質の向上を図った。個人懇談でも学習習慣や生活習慣について、保護者とも話し合う機会を設けた。校内研修では「主体的・対話的で深い学び」についてグループ討議を行い、効果的な実践例を報告し合った。家庭読書も増やせるよう本の貸し出しを積極的に推進した。	学校評価において「学校は子どもの学習規律の定着に熱心に取り組んでいる」と答えた保護者の割合は、84.9%であった。筆箱の中身や学習用具について、定期的に確認したことで、ほとんどの児童がきまりを守り、学習にも落ち着いて取り組めるようになってきたが、すべての学級において、学習規律を徹底させていく必要があるといえる。
課題 あいさつや持ち物などの生活習慣や学習習慣にやや課題がある。また、自主学習に取り組める児童は多いものの、学習内容や時間に課題があり、学習の手引きにより継続して指導していく必要がある。	具体的方策(教員の取組) ①学習や読書・生活習慣に目標を持たせ、「林崎のびっ子学習(学習の手引き)」により、学習用具も含め、家庭と連携して取り組む。 ②図書館サポーターや市立図書館との連携により、読書活動を推進し、多様な読みの力を高める。	取組指標 ①「林崎のびっ子学習」を配布し、学習習慣の定着と自主学習の質の向上を図る。 ②毎週金曜日には、図書室で本の貸し出しを行う時間を設ける。		評価 B 規則正しい学習習慣を徹底させるために、「よいこのふでばこ」を配付して確認するだけでなく、児童はもちろん、保護者や教員にも呼びかけて、さらなる徹底を図っていくようにする。また、授業の予習・復習などの家庭学習にはまじめに取り組める児童がほとんどであるが、自主学習の取り組みには個人差がみられた。家庭学習を阻む要因としては、オンラインゲーム等の普及も考えられるため、今後は家庭との連携がより重要になってくると考えられる。読書活動の推進では、学級によって、図書室の利用状況に差があったため、全校で取り組めるようにしていきたい。	次年度における改善事項

平成30年度 学力向上ロードマップ

